

核兵器も 原発も いららない!

2011年国民平和行進



泉州・旧紀州街道の古い街並みを歩く
平和行進団（7月2日・岸和田市内）

核兵器の廃絶、 自然エネルギーへの 転換をかけた、 猛暑に負けず

元気に大阪府下を縦断

核兵器の廃絶、被災者支援、脱原発・自然エネルギーへの転換をにかけて、東京から広島までリレーで行進する「2011年国民平和行進」が、6月30日から7月7日にかけて大阪府下を縦断しました。自治体首長、議会からあいさつやメッセージが寄せられ、沿道では市民から声援を受けるなど、各地で平和への支持と共感を広げました。8月に広島、長崎で開かれる2011年原水爆禁止世界大会に、大阪からも多くの代表を送りましょう。



人と人がつながり合うことで、 健康が支えられるんです

東大阪市職労
中野 純子さん
(保健師)



はげましてくれた
94歳のおばあちゃん

東大阪市から、保健師として5月18日から22日まで岩手県山田町に派遣されました。町内5カ所の避難所を巡回し、健康相談に応じたり、避難所の衛生管理をしました。「避難されていった人たちは、みなさん律儀で、しっかりされていました」

避難所で出会った94歳のひとり暮らしのおばあちゃん。津波で入れ歯をなくしても、歯ぐきで噛んで、みんなと同じものを食べ、トイレや洗濯も自分でしていました。おばあちゃんは「私を見ているだけでも『元気になれる』とみんなが言ってくれるんです。これが私の役割なのかな。生きていたら、つらいこともたくさんあるけれど、ちよつとのことですれしくなったり、元気になる。だから若いあなたもがんばってね」と、訪

保健師として 東日本大震災の 被災地を訪問

問した中野さんに励ましの言葉をかけてくれました。

猛暑、仮設住宅など
心配なことが…

「でも、この夏は熱中症と感染症がとて心配です」と中野さん。「高齢者が多いので、普段は元気でも、ちよつとのことです。避難所には網戸がないので、ハエや蚊の対策が必要ですし、食事の『食べ残し』にも気をつけなければいけません」被災地では、今後は避難所から仮設住宅へと生活が変わる時

期に移ります。「避難所はプライベートなスペースがなかったけれど、お互いがつながりあって、孤独にならずに元気でした。バラバラになって仮設住宅に移ると、お互いの健康や異変に気づけなくなるのは…。現地には3日間しかいらなかったもので、やり残したことがいっぱいあります。本当は、もつと長い期間で行くことが、地元の方にも必要で大切なことなんじゃないかな」

被災地で感じたこと、
まちづくりに生かしたい

「人と関わる仕事がいい」と保健師になって21年。今回の被災地訪問で、「自分の仕事を見つめ直す、いい機会になった」と言います。「人はお互いにつながり合えることで、健康を支えることができるんですね。医療や介護など専門機関のネットワークも、もちろん大事だけれど、となり近所のつながりとか、もつと身近な人との関わりをつくっていくことが大切だと思いました。住民の暮らしの現場に身を置いて、まずはじっくりと声を聞くこと。そこから保健師の仕事が始まるんだと思います。被災地で感じたことを、東大阪でのまちづくりに生かしたいです」と熱く語ってくれました。